

# 事業概況—2012年度 決算

## 増収・増益を達成

売上高は7,458億円と、発電プラントの大口案件が寄与したこと、および為替の円安進行により、前期に比べ422億円増加しました。

営業損益は、価格競争激化による影響があったものの、徹底したコストダウンや前期に実施した事業構造改革の効果により、前期に比べ27億円増の220億円となりました。

セグメント別の概況は以下の通りです。

※ 本項目は、2013年4月1日付で実施したサブセグメントの変更を反映する前の数値に基づき記載しています。

## 発電・社会インフラ



発電プラントの売上高は、火力発電プラントの大口案件により大幅に前期を上回りましたが、営業損益は、原価低減施策の効果はあったものの、価格競争激化の影響が大きく、前期を下回りました。

## 産業インフラ



産業プラントの売上高は、国内の設備更新需要が比較的堅調に推移したことにより、前期を上回りました。

ファシリティの売上高は、国内の設備更新需要に加え、海外の大口案件が寄与したことにより、前期を上回りました。

## パワエレ機器



ドライブは、中国を中心とした海外における設備投資需要が低調に推移し、売上高は前期を下回りましたが、原価低減および経費圧縮により営業損益は前期を上回りました。

## 電子デバイス



半導体は、自動車分野の需要は比較的堅調に推移したものの、産業分野は世界的な設備投資抑制を背景として、情報電源分野はテレビやPCなどの情報機器の市場低迷により、それぞれ需要が減少し、売上高、営業損益ともに前期を下回りました。

## 食品流通



自販機の売上高は、省エネ型環境対応自販機への置換需要、コンビニエンスストア向けコーヒーマシンの需要増があったものの、中身商品(飲料・食品)の販売終息により前期を下回りました。

## 売上高

	売上高		
	2011年度	2012年度	増減
	単位:億円		
発電・社会インフラ	1,566	1,989	423
産業インフラ	1,105	1,156	51
パワエレ機器	1,508	1,416	-92
電子デバイス	1,122	1,136	14
食品流通	1,155	1,121	-34
その他	1,126	1,169	43
消去または全社	-547	-529	17
合計	7,035	7,458	422

## 営業損益

	営業損益		
	2011年度	2012年度	増減
	単位:億円		
	120	116	-4
	44	50	7
	38	26	-12
	-2	-14	-12
	23	64	42
	26	29	2
	-56	-52	4
	193	220	27

社会インフラは、国内における再生可能エネルギーの固定価格買取制度施行を背景とする太陽光発電システムの需要増などにより、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。



ガスタービン・コンバインドサイクル発電設備を納入  
(沖縄電力(株)  
吉の浦火力発電所)

部門全体の営業損益は、価格競争激化による影響があったものの、増収効果および原価低減により、前期を上回りました。



世界最大級のアルミ製錬プラント向けに、大容量整流設備を納入  
(アラブ首長国連邦  
Emirates Aluminium社)

パワーサプライは、製造業向け電源設備およびIT機器向けの電源の需要が減少し、売上高、営業損益ともに前期を下回りました。

器具は、国内市場における機械装置向けの需要が減少し、売上高、営業損益ともに前期を下回りました。



現地ニーズに即した製品の開発・投入を加速するなど系列拡大に取り組むインバータ

ディスク媒体は、売上高は為替の円安進行を背景に、営業損益は前期に実施した事業構造改革の効果により、前期を上回りました。



パワー半導体の生産能力の増強とリスク分散の観点から、(株)ルネサス北日本セミコンダクタの津軽工場を買収して富士電機津軽セミコンダクタ(株)を設立

店舗流通の売上高は、コンビニエンスストア向けを中心とした冷凍・冷蔵設備および省エネ設備の増加により、前期を上回りました。

部門全体の営業損益は、前期に実施した事業構造改革の効果に加え、原価低減の推進および新製品の投入効果により、前期を上回りました。



上質で香り高いコーヒーを提供するコーヒーマシンを、大手コンビニエンスストアチェーンと共同開発